

《海から山への贈り物》協力をお願い

～別紙・アジア内陸部の子ども達「ヨード支援」プロジェクト（試案）に対して～

以前に海外支援のボランティア？と称してパンフレットを持参して各家庭を回る青年達が自宅に何回も来たことがあります。そんな青年を見ると「そんな時間があつたならバイトでもしてお金稼いで支援しろよ！」「見知らぬ外国の子供達より自分達の生活の方が大変だ！こっちが支援してもらいたいくらいだ！」と断ったことも多々あります。そんな自分も海に憧れる山岳の子供達に出来ることがあると知りました。

きっかけは長年に渡ってアジア山岳地域の子供達を中心に教育や衛生・栄養面で支援活動をしている TPAK 代表の近田さんとの会話の中で「5 年間に渡ってタイの山岳子供達に乾燥ワカメを持参し食べてもらったら甲状腺疾患の子供達が独りもいなくなったのですよ」という言葉でした。山岳の子供達は海を知りません。海の幸を口にすることがありません。すると人間に必要なヨード分を摂取できなくて栄養面で偏り色々な障害を受けるのです。その会話から海に生きる人間にとって「何か出来ないものか？」と感じました。

自分は海苔の生産者です。ヨードをいくらでも生産しています。仲間の漁師と一緒に活動している海の好きな人々も海藻に関わる人が多い。そんな海の人々が協力して「海から山へ贈り物」ができるのです。最初は国内で規格外と呼ばれる海苔やワカメ・コンブ・ヒジキ等々ヨードを含む海藻類を無償提供して TPAK さんに運んでもらう事から始めてその子供達が自立できるまで長く支援できる体制を考えながら進めたいと思います。

これを行うことにより、自分達の活動や仕事にもよい影響があると信じています。たとえば、近年は「森里海連携」という言葉があります。それは森や山は海と繋がって循環して成り立っているということだと思います。山の恵みで海は豊かになる。「海からは何を山に与えることが出来るのか？」確かに海の水が蒸発して山に雨の恵みをもたらすのは判るのですが、漁業者による植林活動も素晴らしいのですが、自分としては「何か他にもあるのでは？」と感じていました。そんな時にこの話を聞いて「あっ！これだ！海は山の恵みで豊かになって、そこで生活する山の人々が必要としているヨードを海の人々の手を介して行えばいいのだ」と・・・「里海」は人が関わってこそその自然を保つという自分達の活動そのものだと感じました。

この他にも、海藻の豊かな栄養を多くの人に知って貰う事が出来るし、海洋汚濁や磯焼けが問題となっている日本の国内の海域を見直すきっかけにもなり得ると思います。「海は地球にとって大切なのだ」と言うことをもっともっと人を通じて身近に感じる事が出来るはずです。

自分達が関わる海藻が世界の子供達の為に役に立つ。これこそが地球の大切な循環に関われることだと信じます。タイやミャンマーの山岳地帯に流れる川から 100 年後？ 300 年後なのかもしれませんが日本の海域にたどり着き自分達の海に栄養を与えているのかもしれませんが。そんな事を考えながら日本の子供達に海の大切さを伝えることが出来るかもしれません。地球の海や山は繋がっているのです。海に生きる人間にとってこの事でプライドが揺り動かされました。

皆様のご協力をお待ちいたします。

・・・と聞いたものの「何から協力すればいいの？」と感じたと思います。

最初は世界に住む山岳の人々が海の恵み(ヨード)を必要としていることを知ってもらうことから始まると思います。

海藻の生産者は製品にならない海藻を少しでいいので提供してください。それも5年・10年と継続できる体制を漁業者仲間や組合と相談していただければと思います。

海辺で活動される市民団体や個人の方々は何が出来るのか?を考えていただいてご提案していただければと思います。

市民の方は市民が参加できる国内の海辺の活動に関わってもらいたいと思います。

企業や行政の方は海外まで運ぶ資金や手続き又は集まるヨードの保管に関しての援助をお願いできればと思います。

まずは何から出来るのか?考えて相談して参加表明をしてください。今後の展開として個人や市民団体・企業・行政を含めた支援グループをつくり、そのグループで相談しながら進めることが出来ればよいと思います。一度に多くのヨードは今のところ必要としていません。長年継続できる支援を求めています。2007年6月に最初の支援を考えています。ぜひ参加表明をお願いいたします。

【参考】

人間のヨードの必要量は1日0.1~0.15mgと言われる。

ヨードを含む海藻(食品100g中) = 昆布(13,000mg) / ワカメ(7,800mg) / 味付け海苔(6,100mg) その他ヒジキ、モズク、天草、海苔の佃煮等々にも多く含まれています。

《文：NPO法人盤州里海の会 金萬》

【参加表明の方法】

《氏名及び団体名 / 所属団体(個人表明で所属団体がある場合) / 住所 / 電話番号 / FAX / メールアドレス》を明記の上で下記のどちらかにご連絡ください。これに関する情報をお知らせ戴いたメールアドレスに流させていただきます。会費などは一切発生いたしませんのでご安心ください。尚、氏名及び団体名は今後作成予定のホームページに公開させていただくことがあるかもしれませんので、匿名希望の場合はその旨をお書きください。



(特活)地球市民ACT かながわ/TPAK 代表 近田真知子

231 0821 横浜市中区本牧原3-1-203

tel & fax: 045-622-9661

Email: port@tpak.org

URL: <http://www.tpak.org/>



NPO法人盤州里海の会 理事長 金萬智男

292-0005 千葉県木更津市畔戸 8

tel & fax: 0438-41-1344

Email: info@satoumi.net

URL: <http://www.satoumi.net/>